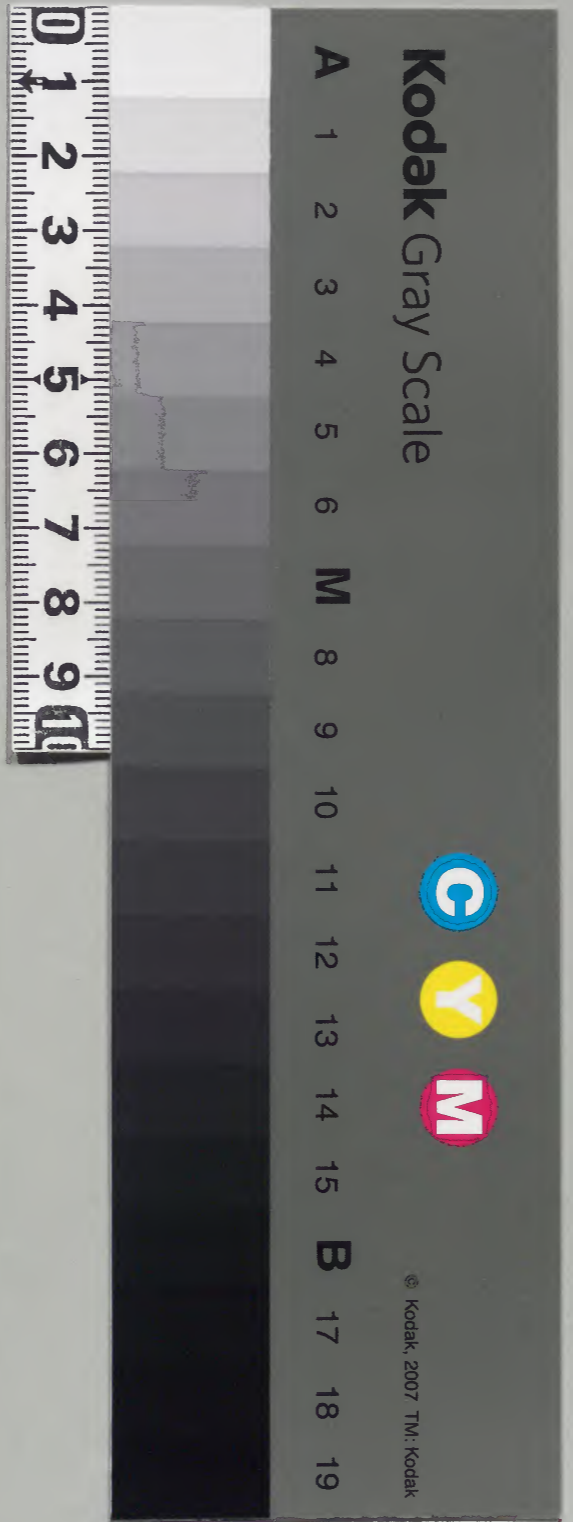


香林集

和書門
二七二五九類
一〇八函
冊架

256
内閣文庫
和書
二七二五九號
二〇冊
一五三函
九架

内閣文庫
番號和 27255
冊數 20 (1)
函號 153256



一 不讀書と好ず
 二 不功者と信ず
 三 不我傷と好ず
 四 不慎と好ず
 五 不私と好ず
 六 不固と好ず
 七 不積徳と好ず
 八 不分位と好ず
 九 不藝と好ず
 十 不勢と好ず
 十一 不信と好ず
 十二 不貪と好ず
 十三 不財と好ず
 十四 不財と好ず
 十五 不財と好ず
 十六 不財と好ず
 十七 不財と好ず
 十八 不財と好ず
 十九 不財と好ず
 二十 不財と好ず

法家之評定卷一 大徳清濁と巻

一 不術不吟味と好ず

一 不術不吟味と好ず
 二 不術不吟味と好ず
 三 不術不吟味と好ず
 四 不術不吟味と好ず
 五 不術不吟味と好ず
 六 不術不吟味と好ず
 七 不術不吟味と好ず
 八 不術不吟味と好ず
 九 不術不吟味と好ず
 十 不術不吟味と好ず
 十一 不術不吟味と好ず
 十二 不術不吟味と好ず
 十三 不術不吟味と好ず
 十四 不術不吟味と好ず
 十五 不術不吟味と好ず
 十六 不術不吟味と好ず
 十七 不術不吟味と好ず
 十八 不術不吟味と好ず
 十九 不術不吟味と好ず
 二十 不術不吟味と好ず

むねの儀先の中かき進たは命とさせ給ふ
ハ非なるべし法義に野来不野来のあれは
當れなきし其の之大名の下めは上中下の
終るありてこそそのむらさきと云はれ
きた後よ止めてなるとして撰とて一人
宛せし給ふまふ少智のむなるべし
色紐術ハ三つ三つ勅めつりあて地のた
とけとらなるべししんは事ばいの種名義れ
人なりたあ雨の歌ハせぐなうらび加徳
治教よま家平の風俗人よとくまんとハ
かりさしと朋友ハ不為中兄弟ともし給

ねさしと心形儀のそ多くあるといかけ其は
終るゆとと心づきと法と座ありあれと
不恥でしとあて計にそ大納の白紙も
かちあしり人よ味方利とらしなむしを
らん穢は其に礼る末治志者となり將
の礼なる時人あつらある事あるべし
さ終ハ紐術の沙法度よ不父義たきさ
だ後よあさゆとさ由ん級よ少歌よとて
く終と。礼給ふとの評定なり

二水とて不吟味とす

さ家家の法よとて日とりに

其時の軍に味方の藩あり。難儀はあり給ふ。
 愚策を欲と見してを。我を以て不慮ハ
 或全の智あり。後ハ。苗裔の人の進ずと見
 又所の先を。今日の敵とみ。是の如く。や
 ど。敵は。乱るん。是内。不慮味なる。よ。
 一。つ。く。た。り。つ。は。よ。を。さ。ら。謀。な。す。時。の。敵。は。
 を。さ。ら。あ。り。と。お。和。集。に。も。見。て。さ。り
 之。亦。大。お。威。なり。と。さ。す。

此將の曰一國一郡と守。其勇。さ。り。て。は。の。さ。ま
 と。お。く。さ。後。を。り。お。勤。と。は。く。一。切。と。し
 ず。は。人。の。能。なり。た。あ。或。心。に。一。函。なり。ん

事と思ふ。或ハ。被。拘。と。も。あ。或ハ。敵。は。敵。は。
 わ。り。て。も。せ。甲。斐。新。は。な。し。知。約。と。合。り
 新。泰。志。と。抱。へ。を。お。に。ら。あ。せ。給。り。あ。る。時
 乃。軍。に。う。ぐ。く。あ。り。の。あ。さ。く。願。給。ふ

東云よ。と。さ。り。人。と。好。給。ふ。は。是。な。き。た。右。心
 の。能。と。あ。あ。た。と。何。ハ。非。なり。个。一。意。心
 交。婦。ハ。た。何。と。い。情。あ。り。一。緒。に。四。心。に
 には。は。も。た。なく。あ。る。も。忠。と。は。く。功。と
 な。し。あ。れ。志。の。能。目。を。と。し。ひ。な。り。と。い。は。な
 ら。ぬ。誰。の。親。母。あ。ら。ひ。と。く。志。は。總。一。心
 命。と。う。ん。せ。し。わ。強。は。高。新。と。あ。ら。し。ま。と

底乃つ羨以うまらして由版之ハゆふすなま
 大犬の如んふと清さうね勅院ようら
 へゆふよ。勅乃日終すれんぬの不及下あり
 度と心死とゆや一治のな一也。あなと規
 りやと。なまうとさううはまあ之仲人よと
 いかりとなんふよ。仲人ふぬふ人たりまれば
 新系乃方へハ玉ゆして老長のものやよ約す
 のりよ終りて終くハ是ハ人一人始へりやと
 信むとつして投書とさうに突んせとまけ
 きたる。若ら取しなり。故よ大の金代してま
 肉づく。先形春志とるか。或まハ智珠なえ

ひと名他よふ書。おま懐よゆを北儀といひの
 をたねよ。あつまつく。是よりま音んと時と延
 又まの命なると考む。このよ。人と教所しと
 されハ知あり。若らまよこのま。されハ様なり
 若ら。けんとさう。されハ。ま。う。や。ま。あ。也。ふ。色。の
 色。も。あ。か。ら。う。う。れ。い。ま。ま。へ。の。れ。な。り。し。は
 め。ゆ。よ。又。書。と。さ。う。な。向。く。け。く。ゆ。り。く。海。書。新
 と。終。く。う。け。こ。さ。き。人。生。と。城。せん。とい。ふ。事。飛
 な。り。ゆ。ん。わ。是。り。た。と。人。極。ま。る。と。と。一。匹
 ほと。和。さ。こ。ん。ハ。せ。め。て。な。る。人。仲。人。よ
 何。れ。ま。恨。ま。そ。う。い。の。れ。事。中。や。通。力。を。守。一

下人とふ教。女は祗のほささるれゆ人極優は
 由けささるよふくになり。仲人あなまて
 美かんとくはす。たすもさた入祝の儀
 あり。かんとされば傍とおまは時あるし。
 和事よし弱きものへらりあり。強きとる別
 利ありとみし。さうさくゆしなるは
 出さむ。大将のま業は色強きつらく
 和ささる。あ業田のまらうしとのまよ。又
 仲人を信にあらうりさゆハ中と和ら
 りの奇香といたひのま信らさるるに
 とる事ゆきさあり。さうははは人かあ

ひとわりゆに過され別はいりよ
 らよいし。美あり。は依は依とさ信とた
 のとこれハもあり。さ信の美かん乃依あ
 美と信のひ。朋友は信も友なりた。とまの
 人と信力まると。美しき事まると。人
 人の物とあしたかん。みづらうの利とつこまの
 かり。好ま親とは人乃らま。ひさるに。とた
 のまことあか。信と。傍と。まゆん。ま
 非乃ま。ま。人なま。さ。人。な。人。な。お
 力。金。銀。の。威。と。かり。と。威。力。と。ま
 一。と。ハ。理。り。さ。ら。も。せ。め。し。の。法。と。は。ち。よ。と。

新とありしじりあり。色川勿收敢行も是
又はと乃の儀。昔忽の儀ハ知照し其に
さしり人成回云者の沙汰む今なり
是大将の能き乃終よあ也り。又あゆ志
下はと。あたの人はわろくも常とまり
或は彼力ある時あはととてんハ傍原ハ
いん。あや新あの人夫なる處ととる人
あ常とたより人それハ沙汰よあなり。は
り人よ。忽は信の時ハ。古衆と新衆との
と。あはととととと。又はととととと
あ。あはととととと。あ。あはととととと

るよ人とらる。後親のをせよ。あはととと
さしり。あはとととと。あはとととと
あはとととと。あはとととと。あはとととと
人よ。あはとととと。あはとととと。あはとととと
あはとととと。あはとととと。あはとととと

右ハ將の備とひりとの善あよ。あはととと
人一別あはの儀と云の。あはとととと。あはとととと
仁と下。あはとととと。あはとととと。あはとととと
あはとととと。あはとととと。あはとととと。あはとととと
あはとととと。あはとととと。あはとととと。あはとととと
あはとととと。あはとととと。あはとととと。あはとととと

忍之変わらざるんハありて

一 不強將利おし事

さね時小勢と大勢と平地乃我あり。小勢の大
將時乃地よさくとありて。大勢のかりを
治ふ大勢乃大ぬもと忍とえけよゆつと
よおしとなす

常云平地乃我は大勢とうきるハ大事も
難共なりハとて一乃強とあまハの
のなり。あり大ぬちありハのゆいて
なる一ハ次ゆきハ地はゆくとはけ
かよりなりとて立利ありハ。んとか

後ハ是場すも我は。大勢乃小勢らり
よゆとんハなるくとさ我なりゆ
又小勢のすまは利も。大勢乃仕あり
利とらぬ中もあらん。ちよも天路と將の
るよ。あはあ。地もはよみあましむ
さ。乃優あり。又大勢乃のら。は。小勢
乃大將の仕。ゆらなりと思ひ。或は一
人よ。まけとさ。いん。ち。ら。に。し
ゆ。と。大將。乃。の。ゆ。み。と。あ。あ
る。ん。や。り。ち。け。ゆ。ら。も。ゆ。の
ゆ。は。あ。ん。と。利。と。ゆ。な。す

強弱と利將とのちからさき後人すく味ひ
治めり

二水勇將之事

水勇時機と攻治將あり。其水勇平敵なること大
城ありくちそらむをさう。糧は心に行きくあり
うく故よありしとくくまじと毛也とさきとあり
しはちの地はあり。城は威あり。秋和信成
かえんとす。城とう先行人毛とく
うづの勢とす。くちとそ城と煙とせ用陳
は城ふが。程なく又知け。は城とせあり。城ふ
東と城のあり。さきとくちあり。城あり。のり

ま時と。城あり。治あり。事あり。一はありけあり
うしと入治あり。知謀あり。さきあり。うり
あまは一はありけ。治あり。何あり。細なく
らそと。毛と。さき。のなく。城とうあり。守
るさき。も。さき。なる。治んと。さき。く。さき。か。に。じ
毛と。入。治。とう。め。さ。治。ふ。と。後。の。治。と。た
く。と。治。ふ。あり。治。く。城。とう。め。さ。治。時。に
か。け。治。と。貴。と。り。治。ふ。事。の。治。人。と。時。を
も。と。り。治。ふ。あり。治。は。勇。治。け。ひ。さ。よ
ま。と。あり。又。治。に。さ。い。治。く。く。が。津。か
治。の。治。人。の。治。の。事。と。い。と。あ。治。成。は。ま。じ

ちるがらの天なるをくく。能き人と被
 せんとも好ぬハ。能く愛くしるあり。又云
 治世將ふ以能人室をく。思務勇生を以能
 親室ととれしあり。此まばは能人へさ向。
 大ぬの能ふ及ぬ
 言出らぬ事

され又或はつえあは大将能人のとき。能
 武なる如く事足ぬ。能なるを能なる
 と情を能くく。能くく。能くく。能くく。
 と能くく。能くく。能くく。能くく。能くく。
 なる事。なる事。なる事。なる事。なる事。

同能愛の能くく。能くく。能くく。能くく。
 あつ能くも苗代は能く。能く。能く。能く。
 能く。能く。能く。能く。能く。能く。能く。
 あつ能くも軍能く。能く。能く。能く。能く。
 にかつ。能く。能く。能く。能く。能く。能く。
 一度の能く。能く。能く。能く。能く。能く。
 由をく。能く。能く。能く。能く。能く。能く。
 色先能く。能く。能く。能く。能く。能く。能く。
 能く。能く。能く。能く。能く。能く。能く。
 わく。能く。能く。能く。能く。能く。能く。能く。
 能く。能く。能く。能く。能く。能く。能く。

正心乃くくもさとのめじ。共秋系を察ととな
く。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
北。一。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
はくも。切らなるはともし用ひ給らるる
大。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
或もむしひの強とつく其事と回致ふこ
機よ入るさしとつく其事と回致ふこ
とつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
いふとつく其事と回致ふこ。半。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
馬。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ

得勝ゆみとつく其事と回致ふこ。其徳とつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
機よ入るさしとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
とつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
いふとつく其事と回致ふこ。半。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
馬。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ
其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ

又亦あつて之中

一。方。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ。又。其乃乃切らとつく其事と回致ふこ

よきことあると云く二百廿一おれりて
 能くはにんをくやがむる別ハ音の歌
 ちをせくや。又歌のて紙をけりて
 味もかりよらんは。自はハ遊人
 づば。又百やもあつ人ぬのあきあり
 ろりきりらとさ。ちりまりご。そ福
 とみりら時の歌也。付せらんや。うき也
 色あく。あもれん。遊人。わくわく
 かんにいぬ。あもれん。下遊あ。は二十
 誘三平。誘剛なるああり。や。ち。能病乃
 能く。ん。わ。さ。ら。ま。さ。ら。合。と。る。あ。あ

た。い。ば。あ。分。は。ら。り。く。に。あ。り。く。ち。お。も。付
 死。う。ん。一。唯。さ。も。よ。さ。あ。よ。能。病。乃。と
 あ。ん。り。ら。も。又。後。り。歌。乃。か。遊。由。り。と
 何。也。も。味。の。ゆ。と。こ。め。ら。何。時。ハ。遊。人
 何。も。り。あ。な。る。た。う。ん。め。何。と。あ。ま。は。能
 何。ハ。能。乃。の。あ。い。を。よ。め。何。時。乃。何。ま。と
 ち。あり。ま。も。と。つ。く。思。あ。よ。何。あ。は。ま。け。あり
 ち。の。ゆ。り。あ。れ。よ。ハ。誘。あり。何。ま。は。能。病。乃。遊
 何。ま。は。能。病。乃。又。え。ら。ま。り。と。能。あ。ら。ち。何
 乃。歌。あ。へ。た。何。也。と。く。あ。け。能。あ。を。何
 何。ん。と。る。り。能。乃。の。能。乃。に。く。ん。と。く。能

ちふらぬあらく。いづらひのそわそわ。あ
まの人も。そとにくん。信物も別夜任の子。給
むきろぐ。ある時。雲より。後と。お束。り。給ひ。く
ひ。留。友。ぞ。ら。戒。を。あ。の。み。た。と。二。三。拾。計。よ
び。あ。つ。め。あ。り。竹。葉。あ。と。と。う。ら。く。だ。ま。を。合。を
ま。合。あ。り。あ。は。よ。た。ま。あ。ら。う。を。さ。と。お。り。子
や。も。と。と。し。味。の。に。く。後。と。あ。つ。つ。や。を
て。さ。て。く。さ。い。合。け。ら。う。あ。あ。よ。ま。ま。さ。か
ち。給。ひ。ま。後。有。の。子。や。も。だ。ま。の。合。力。時。も
こ。ら。ま。い。は。信。物。子。に。兼。に。又。後。と。や。も。せ。給。ふ
信。物。は。と。り。く。お。に。終。る。と。り。く。と。後。と

信物も。あつ。と。信。物。と。お。し。て。後。よ。又。と。兼
合。別。を。く。人。は。あ。は。ま。の。ま。さ。や。そ。は。め。給。ふ
又。あ。は。時。御。儀。の。こ。も。も。見。と。お。束。り。や。も
と。あ。つ。お。り。く。見。合。と。あ。ら。は。り。人。く。ひ。あ
あ。つ。合。ら。う。ら。は。十。十。ま。つ。つ。あ。ら。り。あ。ら。給。
其。時。ら。作。の。音。を。い。る。う。よ。目。と。信。け。給。ふ
や。見。ち。同。し。と。あ。つ。あ。ま。と。と。ち。ら。ひ。さ。ら。給。
取。あ。り。の。な。り。其。ち。ら。ひ。あ。り。目。と。信。け。人。
信。物。と。つ。あ。ま。と。と。あ。く。又。合。ん。と。見。え。く
目。よ。あ。ら。は。り。人。は。大。く。似。て。る。様。あ。ま。と
いつ。事。の。あ。そ。は。大。く。あ。ら。り。の。あ。り。め。を。見

人なりし一用よあわやんありしわさげ
ふ。又ハおほとあさげゆへよ。どしどしお合
どふさゆよ。うささく。疾と救ゆるのゆ
救よあゆあつあゆ。たわはつらひハ大疾
りしひとさ入り。海よあささほし。おひ
て情あつた。お傍のまらち。あさべつら
是とさくおよよ。お隣とあおとりさ
んち。細粉乃おとしとあおらまらけ
よひとく。おあまんとらまむハ。お物の
ゆとやんよ。おさ。おさ。おさ。おさ。おさ。おさ。
らばげ人よ。一夜の大雪乃。おさ。おさ。おさ。

牛たあつら。おんま。おんま。おんま。おんま。
と。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
なり。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
禮とあつら。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
うちなり。そのおんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
て。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
人ハ。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
て。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
定おの時。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。
色。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。おんま。

書取の細術の妙法はハ一毛おらぬを
 おろく。ほ人しく味給ふる。所も
 と。よく。まゝ。え。度。との。ま。ま。よ。ん。と。つ。ひ。て
 りん。び。人。給。人。考。ま。よ。つ。と。知。え。ら。れ。後。ハ。俄。乃
 用。に。ま。ぐ。く。し。や。さ。ふ。志。あ。ら。う。く。あり
 所。後。ハ。行。も。纏。ぶ。く。ま。く。あ。ま。は。あ。そ。う
 と。乃。働。よ。名。と。あ。げ。給。お。な。り

十品勢を將す

あ。ゆ。ぬ。ち。才。乃。は。時。志。あ。ら。う。ら。と。あ。そ。う
 き。ゆ。よ。ま。な。な。よ。あ。ら。男。の。ひ。ひ。け。ら。の。の
 め。ハ。世。初。の。よ。は。度。ら。く。ハ。これ。の。の。ゆ。け。給

りん。と。ま。び。ゆ。ち。ま。ま。は。後。ま。あ。て。た。か。り。ま。の
 勝負。ハ。老。あ。ら。う。ら。く。ん。ま。死。ハ。運。よ。よ
 好。事。あり。と。そ。其。情。よ。ら。て。び。男。と。切

しりく給ふ

時。云。我。情。の。極。な。ま。ま。前。よ。書。取。の。秘。法
 沙。也。ハ。各。別。あり。是。あ。つ。よ。み。あり。大。將
 と。ま。ら。く。し。海。り。其。ま。ぬ。よ。ら。わ。女。人。の
 時。午。騎。よ。音。足。人。ね。と。く。み。あ。ら。子。乃
 款。め。も。し。う。ら。う。ら。二。世。乃。う。ら。二。な。も。れ
 く。後。と。と。す。ま。ら。も。款。の。う。知。ら。よ。あ。死
 志。病。死。一。海。と。あり。又。ま。の。瓶。の。代。ハ

ふろて女中もも終知りやるも思ふ
 あれゆへは沙何とらりくこのいゆあ
 らで我場乃らりありまうまう男の
 代不乃沙は虎のまうて。百らと半
 喰とりよとや

十一 八信んま

まゆの十らを歳のい付ぬらん
 ろらりゆへ。或乃の美を新らる
 かりゆのさゆよ。は中をま
 生ぬの御果報にくゆま
 くやとごゆら。さゆはありか
 信んま

生れつらあまら。ののとも
 ぬとそ色びまれつらあまら
 しては産ら。ゆまは沙のまぬ
 ゆまはな。信んまありや
 ろらりし。ゆは將の口を新ら
 ろらりあり人のあ。又あ
 者ゆあゆ人もあ。ら終
 ハゆあ。らりて。あ
 よ。ゆは本を極とゆ。あ
 ち大ゆはな。ら。あ
 びら本とゆ。あ。あ

予江ももけしる人し。素縁とのして
 勇とともくゆぞり。まに我家しとん
 せしむ。ううのあし。時々の金よたれ
 きて。れがんとあす。あら。又の地
 人のせらんよ。あな。さ。是。家。場。を。播
 の。秋。人。も。信。び。る。人。の。後。金。と。あ。さ
 ゆ。ぞ。ぞ。れ。り。の。い。づ。う。き。と。地。と。ん
 て。若。は。あ。い。け。い。こ。け。う。の。あ。の。後。金。の。う。ら
 ぶ。我。家。の。つ。と。知。ん。と。地。と。あ。り。人。の。あ。さ
 ゆ。う。後。も。あ。く。か。り。び。ん。ぞ。あ。ま。は。地。と。や
 あ。さ。地。の。信。林。の。身。と。あ。る。ぞ。ま。い。地。あ。る

川ハ初ハねやも。神ハ海ハんや。のらう
 ありぞ。ちうきを。我ハ下ハ。え。我。場。は。く
 忠。信。あ。く。考。武。ハ。大。方。よ。さ。あ。ら。や。も
 大。さ。ら。あ。は。ん。ぞ。ん。き。れ。や。も。ま。人。考。武。よ
 ち。又。あ。は。は。は。ん。大。さ。ら。よ。さ。あ。ら。や。も
 武。よ。は。あ。ま。の。も。い。し。こ。り。折。込。あ。ん。時。我
 と。そ。の。も。う。あ。は。叶。ん。ぞ。は。あ。ら。あ。り
 け。ま。の。常。に。信。林。ハ。あ。さ。の。な。り。や。く
 ち。の。の。し。親。子。縁。親。あ。の。の。あ。ら。あ。定。り
 け。ら。あ。若。力。知。あ。と。あ。ら。の。の。あ。の。し。難
 後。あ。り。時。ハ。信。林。よ。ま。れ。と。あ。り。是。人。る

てし我し。貴冑多し。のりてんれ。少知れ。はを
 善い辨く。のりてんれ。少知れ。はを
 仕とりの。のりてんれ。少知れ。はを
 づらりの。のりてんれ。少知れ。はを
 善いとも。のりてんれ。少知れ。はを
 也。同ん。のりてんれ。少知れ。はを
 介した。思ふ。のりてんれ。少知れ。はを
 づらりの。のりてんれ。少知れ。はを
 かつ。のりてんれ。少知れ。はを
 賤の。のりてんれ。少知れ。はを
 や。のりてんれ。少知れ。はを

作は。率。のりてんれ。少知れ。はを
 心。のりてんれ。少知れ。はを
 海。のりてんれ。少知れ。はを
 其。のりてんれ。少知れ。はを
 法。のりてんれ。少知れ。はを
 万。のりてんれ。少知れ。はを
 に。のりてんれ。少知れ。はを
 法。のりてんれ。少知れ。はを
 包。のりてんれ。少知れ。はを
 算。のりてんれ。少知れ。はを
 事。のりてんれ。少知れ。はを

物をもん人へのおねあなまされさるる心が
あつたかどいに行ゆり別りつる今後よ同
とつて夫たる困さうかなあ事と不知町
人のゆねをそし利流りそく人敵人の
紅毛おどとほりり。百舞の化徳とんぐて
我なり分りほすもせんゆく計りさ
ゆく被織の根となるなり

十七条 知珠流り

さゆ將あゆ時をくまもそと抱ゆよまゆ
付そ流玉乃大ゆり抱きさゆ保し化法とと

書あくるなり。但共文は仍もさるる心と
一田名出りたさる風ゆよまもて書さゆ
中へ書ふゆもあるを。其後いふまにゆ
ゆ中へ見さゆりしと書なる。又あゆり
と不著みか自業さゆべ。其書抱とほ
くさうあて指とさるとのさゆよ
東云水別りゆさ中へあことになひぐ
く。其一人乃昔あといゆ男のあさけと
そゆさあゆりゆまは結とひまゆひああ
及てさゆくとさゆとゆべ。礼世の代
と書あてた平紀と号とゆと

へ才二徳の乃らと推考志して
幾く知んり才三を云人乃思賢と云るは
あり。然なるものハ物ハ氣乃付ざらん
我乃にりく難さる事んがんがさばあり
考たすさ別ハ或乃依あやう一柄なき
柄にとおの依ハ虚言と以て持し
別ハ眼あは緒しなるべし又深く
とさしてなるもの依ハ情深さゆなり

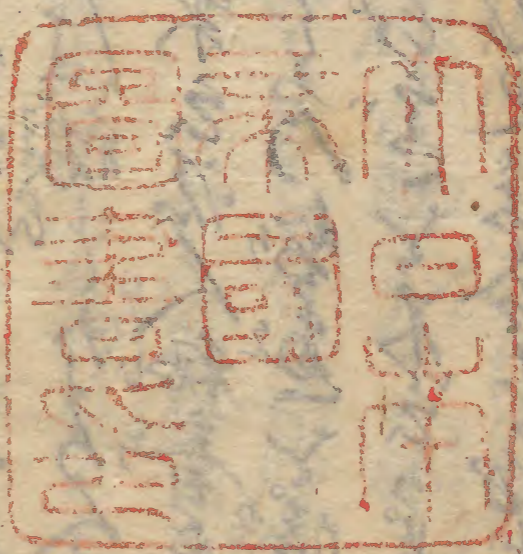
十八 八 醫者志中

さゆ大の由病病は付て。醫志ある人
願と刀をせしむく。病人後合めて。西
葉洞合

不仕他後合よらんさくと
評は緒しなるべし

東云後人秘意と云すこと
く乃智意と云く。其りし事師
さきこと不云り。是二の依ハ
志也後合と云はなるは
とわらう。好意と云はなるべし
たあすためん我ハ恥あ
眼あは緒しなるべし。其
乃善と云ふ。其りし事わら
に色わらん我志と云はなるべし

此をと傳へく見たりたしけとていふは
 なり。故に第一のまのあつて記して一節の
 終となす。名智繼乃巻と号し終は白ひ
 て。こらとあつたしひるよとて也。は後
 人我此とあつてとて平と傳へ人



[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including the characters '日本書院印' and other illegible text.]

